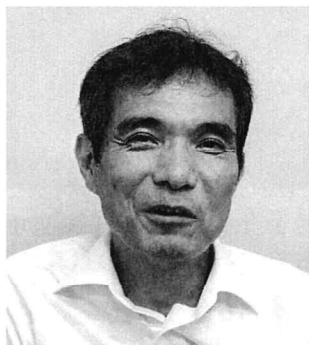


# ～急げタクシー事業活性化！ 特集～

## ヒヤリハットを削減する「事故GEN」



西井社長は、「運行管理者が乗務員の危険運転を指摘しても、心の中で『運転もしない管理者に何が分かる』と思うものだ。運行管理者としても『売上を上げようとする』とスピードも速くなり、

リスクも高くなるだろう』と諦めも感じつつ、自己矛盾に陥りがちだ。かといって放置すれば事故を起こし、社長から『どんな管理をしているんだ！』などと叱責される。逆に厳しく指導すれば退職して稼働が下がり、またぞろ社長から叱責される。現場はこんなノッキングを起こしている」と説く。

「事故GEN」はドラレコ映像からヒヤリハット映像を抽出し、約2分間の映像を生成する。その映像を事務所内で放映することで、乗務員同士が「これは危ないな～！」などと会話する中に、運行管理者が解説を加えることで乗務員と運行管理者のベクトルが同じ事故減に向かうという狙いがある。

「1週間で約2800時間（＝16万8000分）の膨大なドラレコ映像から約2分間のヒヤリハット映像だけを抽出する技術は企業秘密だが、世界初の代物ではないか」と西井社長は語る。同社では応募乗務員の入社を資質で判断することはせず、ほぼ全員採用する。運行が始まれば「事故GEN」によって問題はすべて炙り出され、その一つひとつに対応することで自ずと淘汰されるからだ。

— 大成交通 西井猛社長 —

大成交通（神戸市中央区）の西井猛社長は、自社がサービス展開する「事故GEN」について、「国交省の運輸安全マネジメントでは、ヒヤリハットを集め、原因を究明し、対策を打って、事故を減らす—というPDCAを回して、事故を減らすと言っているわけだが、膨大な運行情報からヒヤリハット情報を抽出することは事実上できない。膨大なドライブレコーダー映像からヒヤリハットをすべて公平に抽出してさらけ出すのが事故GEN。お天道様ならぬAI様が見ていると乗務員は思っている」と説明した。（高原）

起きてしまった事故映像だけを活用する時代から、事前のヒヤリハット映像を活用して対策する—という取り組みに期待したい。

### 低コストで無線配車室を ～タクリーチ

また、同社タクリーチ事業部では、コロナ後の需要減少と人手不足のダブルパンチで存続の危機に瀕する全国のタクシー会社の無線配車室を、低コストでアウトソーシングできる「タクリーチ」のサービスも展開している。元々グループ会社である大成タクシー（同社長、神戸市北区）で運用していたポケットタクシー協会（金子一彦社長、千葉県舟橋市）のクラウド型配車システム「ポケットタクシー」をOEM、モール化したもの。

1回5～10秒でスピーディーかつ簡単に配車ができ、新たな専用車載器も不要で、乗務員のスマホに容量3GB（通信費込み月額500円程度）のデータ専用SIMカードを挿入するだけで「1回100円」の低価格の配車のアウトソーシングが可能となる。

また共同無線方式ではなく、「完全に1エリア1社の契約しか受けないので、競合が発生しない」という利点があり、その地域でこれまで維持してきた顧客の囲い込みが可能だ。これまで秋田県由利本荘市、大阪府交野市、長野県長野市、名古屋市—など全国で7エリアで導入されている。詳細は専用サイト(<https://www.takureachi.jp>)を参照。